令和８年度行政懇談会の結果について

１ 開催概要

日　時	行政区	人数	日　時	行政区	人数
６月２２日（月）	妙法原	６名	７月１５日（水）	一の沢	８名
６月２３日（火）	大寺二区	９名	７月１７日（金）	横達	１１名
６月２４日（水）	布藤	５名	７月２１日（火）	大曲	７名
６月２５日（木）	法正尻	９名	７月２３日（木）	更科団地	９名
６月２６日（金）	塩ノ原	７名	７月２９日（水）	源橋	９名
６月３０日（火）	落合	６名	８月　３日（月）	入倉	４名
７月　２日（木）	大寺一区	１２名	８月　４日（火）	下西連	１０名
７月　８日（水）	大寺四区	４名	８月　５日（水）	上西連	１５名
７月　９日（木）	大寺五区	１１名	８月　６日（木）	赤枝	１７名
７月１０日（金）	大寺六区	４名	８月　７日（金）	こぶしケ丘 東電第二 磨上	５名
７月１３日（月）	本寺	８名			
７月１４日（火）	六郎原 七ツ森	２名 １４名	８月１８日（火）	大寺三区	７名

８月７日（金）は対象地区以外の町民も参加可能とし、町役場で開催した。

参加者合計　１９９名

２　会議録（主な質疑の内容）

妙法原

Q1. 公園についての計画はあるのか

回答

道の駅の拡張構想の中に公園をつくるというものもあるがまだこれから。
屋内遊び場を利用した際の補助もある。会津レクリエーション公園の利用促進、連携もよいのではと考えている。こども園ができることによって 3 つの施設が空くので、どれかを屋内遊び場としてうまく使えないかとも考えている。
（仮）ばんだいの森も公園と呼ばれるような場所にしていきたい。

Q2. 空き家の利用価値。他県の方（埼玉県民の家など）に使ってもらうと循環になるのでは

回答

連携協定都市があり、鎌倉市には米の販売も行っている。そのようなきっかけで町に来てもらえたらよいと思う。町には大きな企業もあるので、その企業の方たちに来てもらって活性化を図っていきたい。

Q3. 水道管の交換状況を教えてほしい

回答

住宅地周辺の水道管は更新済みである。老朽管については年次計画で更新を行っていく。

Q4. 農集排、林集排も含めての料金変更か

回答

下水道事業は特定環境保全公共下水道、農業集落排水、林業集落排水、個別生活排水に区分されているが、料金体系は同じであるため、4 事業とも改定を行う。

Q5. 高速道路 SA など多く使うところの負担率を増やしていかないと、各世帯にしわ寄せがくるのではないか

回答

料金は、一定水量までは定額、それを超えて使用する場合には、使用水量に応じて料金が高くなる従量制となっている。そのため、大口利用者については、使用水量が多くなるほど料金負担も増える仕組みとなっており、一般世帯にしわ寄せが来ることはない。

大寺一区

Q1. 防犯灯整備に係る町補助金の補助率引き上げを求める

回答

地区防災組織を設立していただくことで補助率が上がる制度がある。組織の立ち上げをぜひ検討いただきたい。

Q2. 駅東口の空き区画（SUITE 磐梯東側）の活用計画を早期に示してほしい

回答

駅東口の町有地について、宅地等活用方法を現在検討している。

Q3. 太陽光パネルには有害物質を含んでおり解体での処理技術がまだ追いついていない状況であるが、国や県では現在も推進している。その中で、町は水・磐梯山という自然豊かな場所でもあるので、今後どのような方向で進めていくのか

回答

現在、布藤地区には 50ha ほど設置されているが、町としては、今後、太陽光パネルを推奨していくとは考えていない。

太陽光パネルを設置した故に土壌循環の変化で水源だった場所の水が枯れるなどの事例も聞いているので、今後も町の水・自然を守っていきたい。

Q4. 駅東口の目の前の林のところは何か開発構想はないのか

回答

本地域は、土地が複雑で土地を買うことは難しいため、土地賃借を含めた形で人が集まる場所・公園等として考えていく。

また、熊対策として下刈りを実施したが、また草木が生い茂ってきたので、再度、補助事業等を活用して対策できればと思う。

Q5. 高齢者弁当配布サービスは、一人暮らし限定ではなく 80 歳以上の高齢夫婦世帯にも拡大を検討すべき

回答

高齢者のニーズの把握に努めるとともに、高齢者が地域と交流を持ち続けられるような事業のあり方について検討していく。

Q6. 農村公園の遊具整備・トイレのプッシュ式蛇口設置を早期に進めてほしい

回答

プッシュ式蛇口設置と遊具整備合わせて対応する。

Q7. 一区と二区の地下道の苔除去を早急に実施してほしい（転倒事故が発生している）

回答

実施済み。今後も状況に応じて定期的に除去を実施する。

Q8. 下水道接続率向上に向けた更なる啓発強化を求める

回答

接続率向上に向け、広報を行う。

Q9. 公共施設のマンホール蓋の路面との段差（躓き防止）を早期に補修してほしい

回答

対応済み。今後も破損個所を発見した場合は迅速に対応する。

Q10. 児童生徒は毎週水曜日の午後は休みになり、その時間に先生方の打合せを実施していると聞いた。クラブ活動に関しても地域に移行などで先生方の時間も取れるようになったのに、なぜ休みにするのか

回答

水曜日の午後の授業をなくしたとしても、子どもたちの学習時間が減ったわけではなく、また、中学校の部活動が全てなくなったわけではないため現在はまだ移行期間で教職員が部活動を見ている。週1日午後の時間を研修や授業準備に活用できることで、教職員に余裕ができ、質の高い授業や子どもたちとの関わりが担保できると共に、子どもたちにも余裕ができたと考えている。水曜日の午後のみ放課後児童クラブの活用をしている児童もいる。

大寺二区

Q1. ポケットパーク（床板等）の痛みが激しく、毎年一定額を予算化して補修してほしい

回答

ポケットパーク改修については駅舎活用と同時並行で検討していく。

Q2. 駅西口、ポケットパークを基軸とした地区の魅力化はいい話だと思う

回答

駅舎の無償譲渡が決定しただけで詳細は未定。例えば駅舎等に居酒屋やカフェを誘致するような地域活性化策や道の駅で始まったレンタサイクルなどで道の駅と駅を行き来する人が増えると良い。

また、駅を起点に旧街道から道の駅、史跡までの魅力ある回遊路を検討中である。

Q3. 道の駅でレンタサイクルが始まった。その収入源はどこにいくのか

回答

レンタサイクルは振興公社が実施主体のため、利用料は公社の収入となる。

Q4. 町の定住化施策で空き家を町で改修して賃貸し、一定期間住めば譲渡されるという話があったが、再度確認したい

回答

昨年度、空き家対策として町が 2 件の空き家を購入･改修を行った。利用者を募り貸し出す事業（本寺 1 件、一区 1 件）。一定期間住んだ場合、土地･住宅ともに賃借人に売却ないし譲渡をする予定である。

Q5. 菅原副町長はどのような取組をされているのか

回答

菅原副町長の活動によって、新たな企業との連携やパートナー人材の確保、ふるさと納税の増加などに繋がっている。昨年度は 30 から 40 程度の自治体から視察を受け入れし、地域経済にも還元されている。磐梯町は全国の自治体のなかでは有名な成功モデルとして取り上げられることも増えている。

Q6. フリーアドレスを導入して職員は働きやすいのか

回答

フリーアドレスについては、管理職としては職員とのコミュニケーションが取りやすく、効果を感じている。他方、様々な意見もあることから、今後の運用や展開は現在検証中である。

Q7. ごみの問題について、会津若松市ではごみ有料化でごみが 3 割減ったとニュースで聞いた。その要因は何か

回答

有料化前の駆け込み廃棄と可燃ごみ有料化による資源ごみへの分別意識の高まりが要因だと想像している。

本町においてはシグマとネコママウンテンが大型生ごみ処理機を導入したが本町は企業ごみの割合が大きく、昨年度のごみ削減率の達成の影響は企業努力による部分も大きい。

今後も住民･事業者と連携し、より一層のごみの減量化と資源化を推進したい。

Q8. 自家用車を持つ人はコンポストの利用が可能だが、車がない高齢者で町の施策に役に立ちたい人は協力ができない。何か手立てはないか

回答

誰もができる範囲で参加しやすいごみ減量施策について今後も検討を進めていく。

Q9. 消雪道路が大雪時に機能しなかった原因（地下配管の破損疑い）の調査・対応を求める

回答

当該箇所は県道であり、管理者の福島県に適切な対応を求める。

Q10. シグマの下水道接続について。下水はシグマ単独で処理施設を建設するのか。それに伴い下水道の赤字は増えないのか

回答

町の処理施設で㈱シグマの排水を処理することになる。当然、㈱シグマより料金を徴収するので、経営改善に繋がり、赤字要因とはならない。処理施設の増強についても最新技術を導入し、適切な規模で実施し、将来的な負担を残さないようにする。

Q11. 道割堂の若者住宅では近年中に退去しなければならない人がいるはず

回答

入居条件を喪失する方は退去いただくことになる。町としても、住宅の払い下げや空家活用施策により、退去される方が町に定住できるようにしていく。

大寺三区

Q1. 7 月末の大雨による被害状況はどうだったか

回答

農業関係で 1 億 2 千万円、道路や河川を中心に 5 千万円と約 1 億 7,000 万円規模の被害が発生している。国・県と連携して復旧作業を進めている。JR の盛土被災箇所は復旧が完了している。

Q2. 防災計画では、保育所が避難所になっているが、保育所西の道路が狭く交互通行できないのでその周辺も含め拡幅できないか

回答

民家があり、地権者の関係で道路拡幅は難しい状況である。

Q3. 駅前空き店舗や「丸新菓子店」（旧施設）の活用状況はどうなっているのか

回答

2 階はお試し住宅として活用している。1 階は貸店舗として活用を模索中である。JR からの駅舎譲渡と合わせて駅前拠点化を検討している。

Q4. 空家について、取り壊しなど親族など関係者の方にアプローチをしたいが対応できないか

回答

町としても状況を把握し、固定資産税の納税者など所有者を確認しながら対応を検討する。所有者への働きかけや、場合によっては不動産事業者等の活用も含めて対処を考える。

Q5. 松山地区の耕作放棄地（湿地）の水路・排水対策を検討してほしい

回答

耕作放棄地となっている地番、所有者について確認して関係部署と連携して対応していく。

Q6. シグマ～落合バイパスの開通はいつになるのか

回答

令和 13 年度完了予定であるが、国交付金の交付率が低く、事業が1～2年遅延している状況である。

Q7. 上下水道料金の改定について、人口が増えたり企業進出が進んだ場合でも、令和 10 年度の上下水道料金 7%値上げは実施されるのか

回答

7%は現時点で必要な改定率となる。料金を定める条例の改正前に劇的な経営改善要因が発生しない限り、この改定率を基本に進める。今後は経営状況、経済状況により 5 年ごとにシミュレーションの見直しを行い、定期的に料金改定を実施する。

Q8. 幼稚園や保育所統合に伴い施設の跡地はどう活用するのか

回答

町所有ではなく、民間等へ譲渡する前提としている。具体的には、来年度プロポーザルを行う予定で準備していく。

なお、こども館については町で管理していく。活用方法については、次年度以降検討する。

大寺四区

Q1. 人口が減少する理由を町としてはどう考えているのか

回答

親は「地元には仕事がなく、田舎には何もないこと」が若者が町を離れる原因だと考えている。しかし、実際には町内企業が社員を募集しており、働き口は十分にある。また、都会から来た人からは「これほど多くのものがそろっている町は珍しい」と評価されている。さらに、空き家を安く提供する制度や、子育て世帯向けの若者住宅も整っているため、町を離れた人たちにぜひ戻ってきてほしいと考えている。

Q2. ごみの分別について、町としてはこれからもっとごみが減るようにさらに啓蒙活動等に力を入れてほしい

回答

分別方法の周知及び啓発活動の充実に努める。

Q3. 商店街の空洞化が深刻。昔のような活気ある商店街の再生を目指してほしい

回答

駅西口からの県道磐梯町停車場線沿いの商店街は現在は営業している店舗は、ほぼ無くなってしまったが、駅前から歩きながら磐梯町内を散策できるような拠点づくりを検討していきたい。

Q4. 料金改定をしない場合、令和 28 年度には資金残高がゼロになることを住民に丁寧に説明してほしい

回答

令和 10 年度の改定に向け、令和 9 年度に説明会を開催し、住民の皆さまに丁寧な説明を行う。

Q5. 保育所と児童館をなくすと言う説明があったが、跡地の利用計画はあるのか

回答

町所有ではなく、民間等へ譲渡する前提としている。具体的には、来年度プロポーザルを行う予定で準備していく。

なお、こども館については町で管理していく。活用方法については、次年度以降検討する。

大寺五区

Q1. 空き家を町で取得・改修し、居住可能な状態で賃貸・分譲する事業の拡充を求める

回答

昨年度 2 件（本寺・一区各 1 件）を購入・改修し貸し出ししている。一定期間居住後に売却・譲渡予定である。ばんだい振興公社でワンストップ窓口「まちのオフィス」を開設し、随時相談を受付している。

ばんだい振興公社において空き家調査及び空き家バンク事業を進めている。必要に応じて空き家の取得や借上げを行い、改修後に居住や事業利用につなげる取組を実施している。また、所有者との連絡が取れないケースもあるため、地域住民からの情報提供の協力をお願いした。

Q2. 高齢者の庭木・雑草管理が困難なため、見守りや生活環境維持の支援体制を整備してほしい

回答

関係機関と連携し、高齢者の見守りや生活環境維持に向けた支援のあり方について検討する。

Q3. ペットボトルの排出方法について、分別ハンドブックとごみ収集カレンダーの記載内容に違いがあり、分かりにくいため、分別方法を明確にしてほしい

回答

分別方法の周知及び関連資料の表記統一を図る。

Q4. 町内の歴史・文化資源を活用し、観光振興や交流人口の拡大、地域活性化につなげてはどうか

回答

地域おこし協力隊卒業者による歴史ガイドや観光事業が進められている。現在実施している事業も進めながら、これからも磐梯町の歴史・文化についてより多くの人に触れてもらえるように観光事業と連携しながら進めていきたい。

Q5. 下校後の子どもの居場所づくりや安全な環境整備を充実させてほしい

回答

公民館や体育館の開放、放課後児童クラブ及び地域クラブ活動の充実を図り、子どもたちの居場所づくりを進めている。今後も地域と連携しながら安全な環境づくりに取り組んでいく。

Q6. 秋休み導入・水曜短縮日課の目的・効果について、保護者への丁寧な説明が必要だった

回答

昨年度末の 3 月と今年度初めの 4 月に各学校で校長から保護者会等で説明をしている。秋休みについては、中学 2 年生のためということだけでなく、町全体として子どもも大人も「探究する期間」として考えている。すぐに全ての人がそこに向かえるわけではなかったとしても、教職員含め、学校外で普段できないような経験をすることや「自分の問い」を深めていく時間となるよう働きかけていく。

大寺六区

Q1. 諏訪山公営住宅の老朽化に伴う解体・再開発を求める

回答

将来的に解体再開発を検討しているが、現在 79%の入居があり現時点では難しい状況である。

Q2. 未日常の体験宿泊について周知の要望

回答

町 HP にて周知しているが、周知の強化を図っていく。

Q3. プールの赤字解消のため、大会開催などイベントで利用者を増やす工夫をすべき

回答

今後の活用策の中で検討する。

【意見】 オンデマンド交通利用者の利便性向上を評価

【意見】 諏訪山地区に隣接するシグマ社の社員を、住宅整備により呼び込むべき

本寺

Q1. 空き家については早めに対処してほしい。神社の維持、農地の維持のため人足が多いが、人手が足りない。協力隊の人にも協力していただきたい

回答
空き家の情報を空き家になりそうなうちに連絡をいただきたい。
神社仏閣の維持については、去年の恵日寺山門の屋根修繕は企業の寄付を頂いて行った。カフェで絵馬を販売して、その売り上げの一部が地区に入るような自然に寄付をもらえる仕組みづくりも考えている。
農地の維持については、都会にはボランティアをしたい人がいる。ボランティアを募集してお金を払っていただいて保全していく仕組みを作りたい。

Q2. 空き家周りの草刈り等について見回りして頂けないのか

回答
人の家に許可なく入ることはできない。公社で空き家を管理する事業を行えないか今進めている。

Q3. 一人暮らし高齢者を災害時に避難させる仕組みや日常的見守り体制の整備が必要

回答
災害時要援護者避難支援計画の見直しも考慮し、関係機関と連携し、見守り及び避難支援体制の充実を図る。

Q4. 林道の下から住宅地の間にある農地（畑）が耕作放棄地となっている。何とかできないか

回答
耕作放棄地を農地としていく場合は、町補助事業の「荒廃農地再生事業」を活用いただきたい。シグマ会津ファームが耕作放棄地を利活用することについてはシグマ側でも場所等も検討しているところだと思われるので今後協議していきたい。

Q5. 龍ケ沢の保全について今後も町と一緒に連携して進めていきたい

回答
龍ヶ沢については、本寺地区の皆さんに協力いただきながら管理していきたい。これから水汲みができる場所を整備していく計画もあるので、磐梯町のおいしい水をもっとPRしていき更なるブランド化を進めていきたい。

【意見】 本寺グランド東側の荒れ地を町で購入し宅地化してはどうか

一の沢

Q1. 地区世帯数の減少に伴い、各区への定額補助金の交付を検討してほしい

回答

全 25 区に関わるため慎重な検討が必要である。個別の修繕等については区からの相談に応じて対応している。何かあれば相談いただきたい。

Q2. 天鏡地区の字名変更は、シグマ社のような大企業から同様の要請があった場合に断れない前例になるのでは

回答

字名変更は当該企業が所有する土地のみが対象。シグマ社からはそのような意向は示されていない。

Q3. 町職員の町内居住率はどのくらいか

回答

町内居住職員と町外からの通勤職員の割合は半々程度。採用は町外出身者が多いが、空き家バンク等を活用し、町内への定住を促進したい。

Q4. 磐梯町駅東口に公衆トイレを設置してほしい

回答

駅周辺の賑わい創出に向けた全体計画の中でトイレ設置の必要性も含めて検討する。
現時点では、西口のトイレを利用されたい。

Q5. シグマ社に対し、従業員向け住宅の整備を町から提案してはどうか

回答

町としてもシグマ社と連携した住宅整備は重要と考えており、現在協議を進めている。

Q6. 人口が減れば下水の量も減るのに、なぜ料金を上げる必要があるのか。上水道と下水道ではどちらが赤字か

回答

人口が減少しても上下水道施設の管理・更新費用は減少しない。将来にわたり上下水道サービスを提供するため、やむを得ず料金を引き上げるものである。現時点で、水道は若干の黒字、下水道は大幅な赤字となっている。しかし、水道も今後大規模な施設更新が行われることから赤字になる見込みである。

Q7. シグマ社関連の道路建設（1 億円）よりも、町民が日常的に使う町道の補修を優先すべきだ

回答

シグマ渋滞の解消や西部地区の振興のためにも町道磐梯大谷線整備は必要である。道路補修費については、毎年適正な額を確保し、適切に補修を行っている。

Q8. ある道路の奥の空き家に人が入居する場合、道路が狭いため生活に支障が出るのではないか

回答

当該道路は私道であり、拡幅には土地所有者との調整が必要となる。

Q9. 町民体育館の屋根の錆がひどく、早期改修を求める

回答

施設改修の優先順位をつけながら、体育館の屋根の改修も計画していく。

Q10. 地域の神社仏閣・史跡に由来・歴史を記した案内看板を設置してほしい

回答

地域の歴史を伝える良い提案であるが、由来や歴史の真偽についての調査、看板の設置場所やデザイン、設置に係る関係法令の許可申請手続きの要否、設置後の維持管理等様々な検討事項が生じるため、設置までには多くの時間を要する。

布藤

Q1. 小学校 2 校体制については効率化や経費削減のためにも、統合も選択肢となるのではないか

回答

効率だけであれば統合も選択肢だが、現在は学校の魅力化を重視している。
学校選択制や教育内容の特色により、移住の動機にもなっている。
将来的に維持が困難になれば統合も検討するが、現段階では魅力向上を優先する。

Q2. 地域人材を活用した部活動（くま部など）や地域クラブ活動を特色ある教育として継続・発展させてほしい

回答

地域クラブは中学校の部活の地域展開促進の一助となると共に、地域学校協働活動の促進ともなるためより丁寧に進めていく。

Q3. 教職員の指導力や対応力の低下を懸念している。また子ども同士のトラブルやいじめに関する不安もある

回答

問題は各校で発生しており、軽微なものから行動面の課題まで存在している。
情報は町にも共有され、教育委員会と連携して対応している。
教員の指導力や環境の変化も課題であり、教職員の研修機会を確保するため、週 1 回（水曜日）の研修時間を設定し教員研修を強化している。

法正尻

Q1. 他の自治体では赤字という話も聞くが、磐梯町はどうか

回答

町民が他の自治体へふるさと納税を行うことによる税収減（約 230 万円）に対し、町外からの寄付が約 6 億円あり、財政に大きく貢献している。

国の制度改正により、返礼品の基準が厳格化され、寄付額の上限も設定される見込みのため、今後の動向を注視している。

Q2. 農業の労働集約性・天候依存性と、派遣雇用の条件（固定勤務）が合わない。農業特有の働き方に対応した人材マッチングの仕組みが必要

回答

法正尻地区と人手不足解消についても協議を行い町で支援できる部分があるかどうか検討していく。

Q3. 気候変動により磐梯・猪苗代エリアの米・ほうれん草栽培に優位性が生まれている。地域ブランドとして戦略的に活用すべき

回答

法正尻ほうれんそうブランド化について地区と協議を行い活用の方向性を検討していきたい。

Q4. 法正尻地区の農業課題について

回答

法正尻ほうれんそう産地の維持に向け、地区と将来の営農方針や担い手確保について協議を行い支援の方向性を検討していく意見交換を行う。

Q5. 法正尻地区のポンプ更新・水質（硬水）対策を早期に進めてほしい

回答

法正尻飲料水供給施設の更新を計画的に進める。令和 8 年度は水脈調査を実施中である。

【意見】 農業を前提としない居住・リモートワーク活用など、多様なライフスタイルへの対応が必要

横達

Q1. リオン・ドール出入口付近の信号・カーブミラー等の安全対策を求める

回答

リオン･ドール拡張計画に合わせ導線を含め検討していく。

Q2. 行政懇談会の説明資料を全地区終了後に町 HP で公開してほしい

回答

公開済

Q3. AI による非効率な配車ルートを、運転手の土地勘との組み合わせで改善してほしい

回答

AI 開発会社へ意見を伝え、AI と運転手の土地勘を組み合わせた改善を図れないか確認する。

Q4. 生活福祉バス待合所について、利用のない箇所は行政区と協議の上撤去を進めてほしい

回答

行政区内で協議いただき不要と判断した場合は町に相談いただきたい。

Q5. 道の駅西側の足湯計画の現状を住民に明示してほしい（廃止であれば廃止の周知）

回答

当時の計画であり、現在は足湯設置の計画を想定していない。廃止として住民へ周知する。

Q6. リオン・ドール内の舗装破損は町が修繕するのか

回答

町で修繕する。

Q7. 総合計画アンケートについて、地区名・年代記入による個人特定への懸念及び回収率減になるのでは

回答

次回実施する総合計画アンケートについては、地区のみにするなど検討する。

Q8. ばんだいコインのクレジットカードチャージ機能追加を求める

回答

経費等の面を含め、導入の可否について検討する。

Q9. 公民館（講堂）北側の道路漏水箇所の早期対応を求める

回答

地下水が湧き出ているものである。

Q10. 狐塚 3 世帯への除雪時間が遅い（6 時過ぎ）問題を改善してほしい。委託路線となるのであれば、前任者との引継ぎや現地確認を丁寧に行っていただくようお願いする

回答

除雪は午前 7 時までに完了するように実施している。降雪状況により、時間が遅くなることがあるため、ご理解いただきますようお願いしたい。

Q11. 北六郎原に磐梯町の土地がある（JR 隣接地）町に３年前、木の枝払い等を行ってもらった。そこからカモシカやイノシシが稲や豆類などを食べに来ている。財政管財係には相談もしているので把握していると思うが、改めて、伐採などの対応をお願いしたい

回答

現地を確認して鳥獣害対策と合わせて検討していきたい。

Q12. 子育て・高齢者世帯に配布された米（コシヒカリ）の品質管理を徹底してほしい

回答

関係事業者に対し、精米工程及び品質管理体制の再点検を依頼し、品質管理の徹底を図る。

【要望】 コインランドリーの存続を要望

大曲

Q1. オンデマンドタクシーについて、グループ（複数人）で一度に予約できる機能を追加してほしい

回答

現状の予約方法を確認し、対応を検討する。

Q2. 地元高校生・若者が町内企業に就職しやすくなるよう、企業との連携強化を求める

回答

企業の採用基準があり町からの直接的な働きかけは難しい面もあるが、役場職員・地域おこし協力隊の採用案内を行政区長経由で周知している。町内での就職に関心がある方が周りにいればぜひお声掛けいただきたい。

Q3. 振興公社は具体的にどのような役割を担っているのか

回答

道の駅や慧日寺資料館、ばんだいコーヒー、庄九郎亭などの運営のほか、マーケティングや町の観光促進など、多岐に渡って町の PR になるような事業を行っている。去年からは不動産事業も開始し、リオン・ドール内に空き家の相談窓口「まちのオフィス」を開設し、相談事業を行っている。

Q4. 金婚式（福島民報主催）が終了となる場合も、町単独で継続してほしい

回答

事業継続に向けた対応を検討する。

Q5. 老人クラブの存続が危ぶまれる状況。地域・社協・行政が連携し担い手確保に取り組むべき

回答

社会福祉協議会等と連携し、活動継続と担い手確保に向けた支援を検討する。

Q6. 名水とうたっているが、名水を使ったコーヒーや紅茶、ジュースなどは売っていないようだが、いかがか

回答

令和 9 年度開催の全国名水サミットに向け関係する事業者と協議する。

Q7. 今年度は商工会でのとくとく商品券は販売しないのか

回答

今年は、物価高騰対策の補助金で、7 月下旬に一世帯 3 万円の商品券を配布したため、例年販売しているとくとく商品券は販売しない。

塩ノ原

Q1. シグマで社宅を建てる計画はないのか

回答

新道路建設に伴い沿線に新たな住宅団地整備を検討した中でシグマ社宅建設も視野に入れていきたい。

Q2. 以前あった地熱発電所の話はどうなったのか

回答

現在、当該計画は存在しておりません。

Q3. 道の駅のところに温泉を掘ったりしてはどうか

回答

ポンプを入れて作業するのは大変なのでなかなか難しい。温浴施設でお湯を購入するのが費用面では一番いい。道の駅の開発計画はこれから作成していくが、今後増設は検討していきたいが費用面で調整が必要である。近くの温泉施設を利用できるチケットの配布は今できるかなと検討しているところである。

Q4. 農振地域除外の申請手続きについて、地区まとめての申請が可能となるよう整理・周知してほしい

回答

農振除外の申請については、地区で取りまとめた上で申請いただくことが可能である。ただし、除外の可否については、各筆ごとに周辺農地への影響や農地利用の状況などを踏まえて判断されるため、地区でまとめて申請した場合でも、一律に除外が認められるものではない。また、農地の状況によっては、農業委員会による非農地化に関する相談も可能である。今後も制度や手続きについて周知を図り、相談しやすい環境づくりに努めていく。

Q5. 耕作放棄地のシグマ社への農地活用（購入）について

回答

シグマ会津ファームでも 4 月から経営継承したばかりで耕作放棄地の活用についても検討しているところだと思われるため、シグマ側と協議していきたい。

Q6. 以前土地改良区の役員をしていた時に、お酒を飲む機会が多すぎるし、研修という名目での旅行があって、無駄な支出が多いように思う

回答

土地改良区の運営については町が直接関与する立場にはないが、いただいたご意見は土地改良区へお伝えする。なお、将来的な運営の効率化に向け、土地改良区の合併についても協議が行われている。

Q7. 小学校選択制は不登校対応・移住促進の観点から有効。積極的に PR すべき

回答

学校選択ができることと共に第一小第二小それぞれの特色を伝え、そのメリットについて PR していく。

Q8. 若い人たちには地区に入ってきてほしいが、昔からの地域の仕来りがあって、そこに入って生活するというのは大変である

回答

地区によってしきたり、慣習、行事等が異なるため共通フォーマットに各地区で入力できるようなものを作成し、それをもとに地区としてその方に対し地区のルール等の説明やサポートをお願いしたい。

更科団地

Q1. 行政懇談会の日程を庁内各課に周知徹底し、他会議との重複を回避してほしい

回答

今後このような重複が生じないよう庁内各課へ周知徹底する。

Q2. 利用者集中時間帯の配車不足を解消するため、台数増加等を検討してほしい

回答

台数を増やすのは経費の増加になるので、現在は予定していない。
なお、利用状況からみると、午前9時から正午及び午後1時から午後5時までの時間帯が、利用件数が多いため、時間に余裕をもって利用いただきたい。

Q3. 学校・スーパー近隣など利便性の高い場所への宅地分譲を優先的に進めてほしい

回答

検討中である。現在は、空き家を買って改修して分譲する事業を進めている。

Q4. 居酒屋等の飲食店ができる予定はあるのか

回答

今後、検討したい。今は磐梯コーヒーを居酒屋にしたいなと考えている。

Q5. 下水道の普及率は

回答

現在の下水道の接続率は88%となっている。

Q6. ゴミ減量化について、今後の町のビジョン等はあるか

回答

新設したネイチャーポジティブ戦略推進係を中心に循環型のまちづくりを推進し、ごみの減量化と資源活用を進める。また酪農農家とも連携することで循環型農業のさらなる促進を図っていく。

源橋

Q1. 固定資産税通知書の課税明細書の文字が小さすぎる。高齢者でも見やすい帳票形式への改善を求める

回答

現時点のシステムは大きくすることは難しいので、次期システムで見直す。

Q2. 防災行政無線の昼のチャイムを、住民が親しみやすいシンプルな音楽に変更してほしい

回答

防災無線保守業者と放送内容の協議をする。

Q3. 星野リゾート利用客から温浴施設を望む声が多い。町民も利用できる施設があれば良い

回答

温浴施設は観光振興や地域活性化に大きな効果が期待できる一方で、公共施設として整備した場合には多額の維持管理費が必要になる。そのため町としては、町が直接整備・運営する方式ではなく民間事業者による整備・運営が望ましいと考えている。星野リゾート側から整備の意向は聞いており、2030 年度頃までの実現を期待している。

Q4. 移住・定住促進策を進めているにもかかわらず、住宅不足により移住希望者が他市町村へ流出している。住宅確保策の抜本的強化が必要

回答

新道路建設に伴い沿線に新たな住宅団地整備を検討している。

Q5. 公共施設について、老朽化が進む中でも計画的な修繕や維持管理を行いながら、長く利用できるようにしてほしい

回答

町内の公共施設の多くが建設から相当年数が経過しており、今後大規模な修繕や更新が必要になる施設が増えている。近年は建築資材の高騰や人件費の上昇により、修繕費も大きく増加している状況にある。そのため、人口減少が進む中で、既存施設をすべて維持し続けることは財政的に困難であるため、施設機能の集約化、複合施設化、施設統合、他自治体との共同利用なども視野に入れながら、持続可能な公共施設のあり方を検討していく必要がある。優先順位をつけながら、できるところから順次整備を進めていきたい。

Q6. 町として太陽光発電設備などを設置し、その電力を町内企業へ優先的に供給するような仕組みや、再生可能エネルギーの地産地消を進める計画はあるのか

回答

町では、電力事業に関わる企業の誘致や連携を見据え、町内で生み出した電力を地域内で活用する仕組みづくりについて協議を進めている。また、専門家を交えた「ネイチャーポジティブ推進戦略会議」などで、再生可能エネルギーの活用や地産地消型のエネルギー供給、地域内での電力循環について検討している。

将来的には、自然エネルギーで発電した電力を町内で消費する体制の構築を目指しているが、現時点では具体的な事業計画は検討段階であり、詳細がまとまり次第、住民へ報告する予定である。

Q7. 電気柵のバッテリー故障等の消耗品の迅速な補充・交換体制を整えてほしい

回答

電気柵のバッテリー等の交換については、広域柵及び補助で購入した電気柵の資材の修繕等は原則自己負担となりますのでご了解いただきたい。なお、資材の発注、状況確認等については迅速に対応する。

電気柵の耐用年数の8年を経過した場合は、新規設置として町へ申請をしていただきたい。

Q8. 近年はイノシシやクマの出没が増加しており、地域住民の不安も大きくなっていることから、継続的な対策強化を求める

回答

毎年クマの出没状況についてデータ化してまとめ見れるようになっており、そちらのマップを確認いただきたい。また、県補助事業の里山林整備事業などを活用し山林の整備を継続的に行っている。今後も継続して整備していくことでクマやイノシシの移動経路についても調査していく。

Q9. 磐梯山ゴールドライン等のセンターライン・区画線の早期補修を求める

回答

道路管理者である福島県に要請している。

入倉

Q1. ㈱シグマの他に新たな企業の参入や誘致はないのか

回答

新しい企業が7社あり、大きな工場の建設はないが様々な業種の企業が参入している。

Q2. ㈱シグマの景気は今もいいのか

回答

利益率が上がっているようなので景気がいいと認識している。

Q3. ゼロから就農する場合は想像以上に収入が安定せず、経営が軌道に乗るまで苦労も多く生活が苦しそうな人も見ているので、そのやり方では無理だとストップをかけることも大事ではないか

回答

新規就農については、就農計画の内容や実現性を関係機関とともに確認した上で支援を行っている。また、就農前の相談段階から経営上のリスクについて説明するとともに、就農後も関係機関と連携しながら継続的な指導・助言や先輩農業者との交流機会の確保に努め、安定した農業経営につながるよう支援していく。

Q4. 水道施設の維持管理は大変だと思うがしっかりやってもらいたい

回答

適切に管理を行う。

Q5. 入倉の直近の課題として、若い人が不足しており、消防団員も６人で区長などの役員も数年後にはやれる下の世代の人がいない状況である

回答

消防団については班編成で他班と合併するなど人員不足に対応する。

町内には仕事もあり、より豊かな暮らしができることを広く伝えることで、農業の後継者や移住・定住者の増加につなげたいとしている。

また、農地中間管理機構の活用により農業へ参入しやすい環境が整っている。今後は、地域おこし協力隊の若者やＵターンした子ども・孫世代が活躍できる仕組みづくりを進め、地域のつながりや活力の向上につなげていきたい考えである。

下西連

Q1. 今回の大雨での影響はどの程度になるか

回答

建設、農林業分野で合計 100 カ所以上の被害があり、被害総額も2億円近くになっている。

Q2. オンデマンドタクシーだが、町内であればどこへでも行けるという説明だったが、以前、登録されていない場所には行けないと断られたことがあった

回答

以前の乗合型地域タクシーでは、登録された地点での運行となっていたが、現在運行しているオンデマンドタクシーは、町内であれば乗りたい場所から行きたい場所へ、利用者の予約に応じて最適な運行ルートでご案内できるようになったため、様々な場面で利用をしていただきたい。

Q3. 町の人口減少が止まらず、このままでは、町として成り立っていくのか心配である。これからのまちづくりにどんな考えを持っているのかお聞きしたい

回答

磐梯町だけでなく、全国的に人口減少が進んでおり、こういう状況にあっても全国各地の市町村で人口を増やそうとしているため厳しい状況となっている。町では、今後も移住してもらうための政策は続けていくが、定住人口だけでなく町の発展のためにも関係人口 4,000 人を目標に取り組みを進める。

Q4. 町道上西連線南側の未着手区間の整備を進めてほしい

回答

町道上屋敷線の当該区間は、上下水道管の布設替え、消火栓の移設及び県道取り付け部の大規模な交差点改良が必要であり、現時点では未定となっている。

上西連

Q1. 県立医科大学との連携（学会・地産品活用等）を積極的に推進してほしい

回答

新理事長（上西連出身）からも連携意向を聞いている。学会開催時の磐梯町の水・農産物活用なども含め、できる部分から連携していく。

Q2. 高齢化が進む農村地区（上西連等）でこそ、若者定住促進が喫緊の課題

回答

他地区も高齢化が進んで人足もできないという話も聞いている。様々な方向から検討して

いかなくてはならないと思っている。まずは住宅に住んでもらう、空き家を貸し出すといったことで住宅を整備することが必要になると思う。

Q3. 将来空き家になりそうな家について、新たな人が住んでみてはどうか

回答
今住んでいる方が将来的に施設を利用することになった場合にも、ご健在な内に町と何らかの契約を結んで町が家屋を購入してそれで施設の費用を支払うということもできるのではないかと思う。現在はばんだい振興公社でワンストップ窓口でも様々な相談を受けていますので、今後色々お話しいただいて活用していきたいと考えている。

Q4. ばんだい名水で飲む以外に「見せる名水」があるといいと思う

回答
希少生物であるため常時の展示は難しいと思うが、各種イベントなどで住民の方にも見ていただける場を作っていきたい。

Q5. 今回の大雨について、想定以上の水が住宅の方に流れているので、水がどのように流れているのか、用排水の点検も検討してみてはどうか

回答
道路排水、農業用水等があるが、それぞれの管理者により適切に点検管理するように努める。

Q6. 喜多方塩川町方面からの磐梯町への案内看板の更新を求める

回答
道路管理者である福島県に要請している。

Q7. 上西連地区にも若者住宅の建設を求める

回答
町の人口増、定住対策として、建設の必要性を総合的に検討する。

Q8. 二小の運動会は元々地域全体と連携して行っていたので、今の先生や生徒たちが地域の人と交わるようなイベントや行事があればいい

回答
二小の魅力は温かさであると思うので、これから色々な人が来ていただいて将来的には住宅を整備して住んでいただき仕組みができてくればいいと思っている。

落合

Q1. 地区集会所の改築が課題である

回答
町の補助金を活用して地域コミュニティ形成を図っていただきたい。

Q2. 複数ある神社仏閣の維持管理が大きな負担となっているため、統合して集会所として活用することも検討している。なお、屋根の改修が必要であり、現在、業者と協議中である

回答

補助金の活用について、早めに総務課へ相談いただきたい。

Q3. 10 年先の将来像だけでなく、5 年程度の短・中期的な実現可能な計画を示してほしい

回答

総合計画では 4 年間の計画期間の中で成果を求めており、定期的に見直しを行っている。短期・中期・長期の視点を持った計画立案が必要であり、目先の成果だけでなく将来の成果も重要である。総合計画においてこれらを総合的にカバーしていく。

Q4. スマートシュリンク（縮小型まちづくり）の視点を総合計画に反映させるべき

回答

道路や上下水道等のインフラの維持は大きな課題であり、スマートシュリンクの考え方を総合計画に反映させていく必要がある。

Q5. 高齢者の一人暮らしに対する将来不安があるが、町には日頃から支援をいただいている

回答

今後も見守りや相談支援体制の充実に努める。

Q6. 名水を活用した企業誘致を図るべき

回答

水に関する事業、販売方法等を含め関心のある企業へ磐梯町の名水を PR できるように進めていくことを検討する。

Q7. 中部（本寺地区大谷川）の河川敷整備について、西部地区においても可能であれば実施し、交流の増進を期待する

回答

河川管理者である福島県に伝達済みである。

赤枝

Q1. 地区内に AED を設置してほしい

回答

地域の実情や設置状況を踏まえながら、配置を検討していく。

Q2. 今回の豪雨災害を踏まえ、地区防災計画の充実や地域住民が参加する避難訓練の実施、高齢者等を含めた地域防災体制の強化を求める

回答

地区避難訓練マニュアル等の作成を検討する。

Q3. 所有者不明地等において雑木や雑草が繁茂し、防災上の不安があることから適切な管理を求める

回答

所有者不明地等への対応については、弁護士等の専門家と連携しながら対応方法を検討していく。

Q4. 草木ごみの処理に苦慮しているため、処理体制の充実を求める

回答

草木ごみの再利用を含めた資源循環型の処理体制の充実と利用促進に努める。

Q5. 道路沿線へのごみのポイ捨てや不法投棄が見受けられることから、防止対策の強化を求める

回答

関係機関と連携し、不法投棄防止対策の強化に努める。

Q6. 導入拠点施設については、利用実態を十分に踏まえた上で整備を進め地域住民が利用しやすい施設として活用してほしい

回答

農業支援拠点は、地域の皆さんにとってのより良い活用について 7 月から配置した地域活性化起業人を中心に話し合い、居住スペース等についても使いやすくなるよう検討する。

Q7. 前川の河川敷土砂堆積・河川断面縮小への根本的治水対策を求める

回答

対策の必要な区間の護岸工事は実施済みである。土砂などが堆積した場合は除却作業を行う。なお 2026 年 7 月 30 日豪雨による土砂撤去は実施済みである。

Q8. 県道沿線の立木繁茂による見通し悪化・冬期吹きだまり対策（防雪柵設置等）を求める

回答

道路管理者である福島県に要請している。

Q9. 側溝等の維持管理や排水機能の確保について改善を求める

回答

道路排水、農業用水等があるが、それぞれの管理者により適切に点検管理するように努める。

Q10. 若者や移住希望者の受入れを促進するため、住宅地整備や宅地分譲を進めてほしいと。また、空き家の有効活用を進めるとともに、移住者の受入れ環境の整備を求める

回答

新道路建設に伴い沿線に新たな住宅団地整備を検討しているほか、空き家の有効活用を進める事業も展開している。

Q11. 熊出没時の児童の安全確保・保護者の送迎負担軽減策を強化してほしい

回答

学校や関係機関と連携しながら適切な対応を検討していく。

七ツ森・六郎原

Q1. 各戸に消火器を配布すれば消防団員はいらないのではないか。消防団の定数が班の統廃合等により減になっており、地域として初期消火を担える人が必要

回答

各家庭の消火器は初期消火に有効であるが、大規模火災や複数の災害への対応は困難である。そのため、消防団が消防署と連携し、消火・救助・避難支援を行うことが重要である。消火器と消防団はそれぞれ異なる役割を担い、地域全体で防災力を高めていく必要がある。

行政区においては自主防災組織を設立して防災、災害初動対応をお願いしたい。

Q2. 高校生通学時に朝の電車に間に合うバスの運行を検討してほしい

回答

バス増便はコスト課題が大きい。また、運行事業者の対応も厳しいことが想定されることから、引き続き現状の対応でお願いしたい。

Q3. 国勢調査員への区長の負担が大きい。集落支援員制度等を活用した担い手確保の仕組みを検討してほしい

回答

次期国勢調査員選任は、従来の区長依頼、集落支援員制度、業者委託など様々な方法を次回から検討してまいりたい。

Q4. 別荘地の管理が実質なくなったことに関して、町としての考え方・周知・対策の説明の必要性があるのではないか

回答

七ツ森リゾート地について町が株式20％を保有している背景（意図せぬ売買等を防ぐため）や、管理会社が担うべき部分について関係者間での協議があった旨を説明する一方、詳細は「聞いている範囲」としての整理となっている。

Q5. 七ツ森リゾート所有施設（グランド、テニスコート、プール等）が管理されず放置されている。
・町は「施設管理がなされるよう働きかけるべきではないか」「十億円をかけて一大リゾートにする」等の説明があったが履行されていないのではないか

回答

株式20％の立場から状況を把握し、説明している。
最低限の管理（道路際の草刈り等）を求めることは町としても伝える。
「町道に出てきたから町がやる」状態を生むのは不公平であり、自社（管理会社主体）側で管理を行うよう徹底する方針で働きかける。
既存建物の所有者が別にいる等、町側だけでは直接対応できない領域もあるため、行政区と町が連携し、できる範囲で指導・連絡を行う。

Q6. 太陽光の交換後パネルが山積みにされ、処分が追いつかない状況への懸念がある。（猪苗代地区）取替後のパネルの破損が進み、田畑等への環境影響が心配

回答

処分費用の負担・管理の難しさ、規制の状況が絡むことを説明。
町としては関係機関・制度の運用を確認し、懸念が出ている点は今後も把握していく。

Q7. 宿泊事業者の関係でモバイルバッテリーの発火リスクを懸念している。危険物の回収・周知が必要ではないか

回答

回収方法のさらなる周知につとめ、適正な回収の実施に努める。

Q8. 里山の森林管理補助の申請時期と区長交代時期のズレ解消に向け、町主体での対応を求める

回答

里山林整備事業は、地区から事業要望を町に伝えていただき、2 月までに実施計画書を作成し県に申請することになるが、その際に地区で組織（名称は○○○里山を守る会など）を設立してもらうことになる。申請時期と区長交代時期がズレるが、区長と組織代表者の方が違っても問題はない。なお、事業実施要望の際には町から説明するのでご検討いただきたい。

Q9. 事業用と家庭用の水道基本料金の格差を見直してほしい

回答

家庭用の水道は、飲料水や炊事、洗濯、入浴など、日常生活を営むために必要不可欠なものである一方、事業用の水道は、営業活動や事業運営のために使用されるものであり、経済活動に伴う利用という性格がある。このため、磐梯町では、生活に必要な水道についてはできる限り住民の負担に配慮する一方、事業活動に使用される水道については、その性質を考慮し、事業用の基本料金を家庭用より高く設定している。

Q10. 庭の散水分（下水に流れない水）に対する下水料金算定の見直しを求める

回答

個人負担でメーターを設置いただき、下水道に流れない水道量を申告していただく方法があるので、建設課上下水道係にご相談いただきたい。

Q11. 七ツ森・清水平リゾート線でのスキー場利用車両の速度超過対策を求める

回答

磐梯町、猪苗代町で連携し、スキー客が七ツ森地区を迂回するよう誘導している。また、磐梯町、星野リゾート両者で、Google 社に七ツ森地内をナビで案内しないよう要請を行っている。

Q12. 私有地内の倒木・危険木について、管理者不明の場合でも町が主体的に関与できる仕組みを検討してほしい

回答

急を要する以外は民法上勝手に処分することは難しいため状況に合わせて対応する。

こぶしヶ丘・東電第二・磨上

Q1. こぶしヶ丘地区の緑地活用・集会所設置により住民間交流の場を確保してほしい

回答

土地所有者は把握できている。行政区集会所建設について、町補助等があるが、建設（町補助率：建設費等の 30％～50％）に係る行政区負担や維持管理費等行政区で検討していただき必要な場合は町に相談いただきたい。

また、除雪雪押場となっている区画もある。

上西連・大寺五区・赤枝

Q1. 鳥獣害（クマ・イノシシ）対策はガバメントハンターの雇用を含む専門的・継続的体制の整備が必要ではないか。

回答

現在ガバメントハンターとして有害鳥獣対策の専門員の雇用を検討しており、今後募集していく予定である。

大寺六区・横達

Q1. 日用品の購入場所がなく不便。ドラッグストア誘致を早期に実現してほしい。

回答
ドラックストアの誘致に向け調整している。

法正尻・塩ノ原

Q1. 農業の担い手・後継者不足が深刻。農業継続が困難になった際の「閉め方」も含めた計画が必要ではないか。

回答
担い手や後継者不足が課題となる中、農業経営の継続が困難となった場合に備え、農地の適切な承継や有効活用を進めていくことが重要であると認識している。町では、農地中間管理機構の活用などにより農地の集積・集約化を推進し、将来を見据えた農地利用の確保に努めていく。